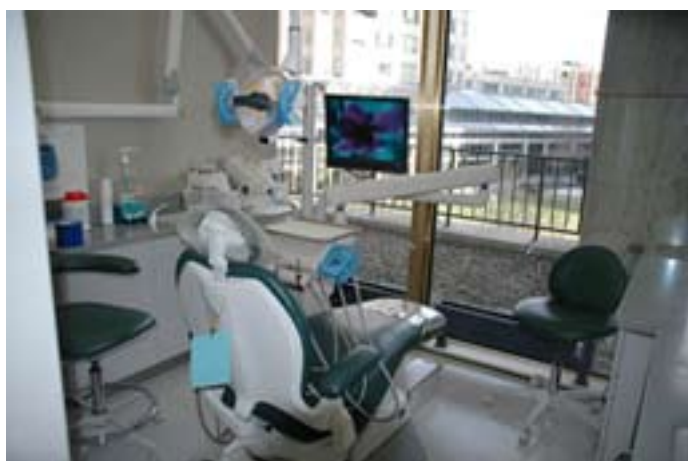
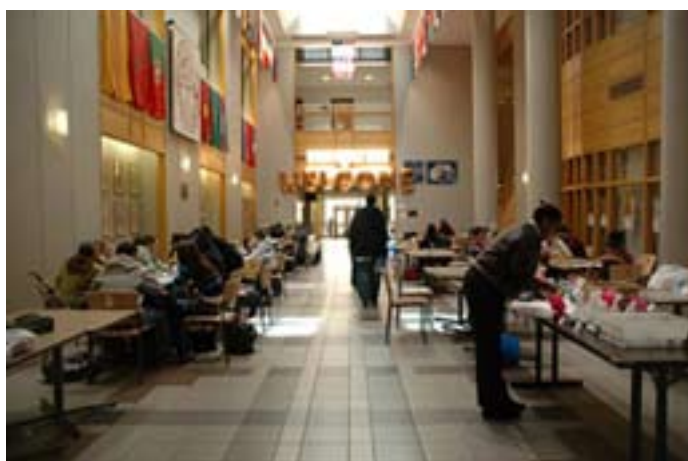
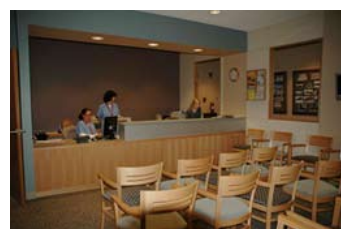


BOSTON 大学研修セミナー

2006年 4月4日～12日



2006年4月20日

日吉歯科診療所

全日程表



日時	月/日 (曜)	地名	時刻	交通機関	スケジュール
		東京(成田)発	16:55	UA882	空路、シカゴへ(所要時間11時間20分)
.....国際日付変更線通過.....					
1	4/4 (火)	シカゴ着 シカゴ発 ボストン着	14:24 16:00 19:22	UA530 専用車	乗り継ぎ 空路、ボストンへ(所要時間2時間22分) 着後 ホテルへ 〈ボストン泊〉
2	4/5 (水)	ボストン	終日 夜	徒歩 専用車	ボストン大学にて研修 ご夕食をお召し上がりいただきます (中華料理) 〈ボストン泊〉
3	4/6 (木)	ボストン	終日 夜	徒歩 専用車	ボストン大学にて研修 ご夕食をお召し上がりいただきます (シーフード) 〈ボストン泊〉
4	4/7 (金)	ボストン	終日 夕方	徒歩	ボストン大学にて研修 レセプション開催(18時開始) (Boston University Terrace) 〈ボストン泊〉
5	4/8 (土)	ボストン	終日		自由行動 観光などお楽しみ下さい 〈ボストン泊〉
6	4/9 (日)	ボストン	午前 13:30	専用車	自由行動 Dr.Rabinowilz主催のBBQパーティー (予定)(14時開始) 〈ボストン泊〉
7	4/10 (月)	ボストン	朝 午後	専用車	ボストン市内施設(開業医)見学 ボストン市内衛生士学校視察 〈ボストン泊〉
8	4/11 (火)	ボストン発 シカゴ着 シカゴ発	早朝 09:00 10:46 12:12	専用バス UA531 UA881	空港へ 空路、シカゴへ(所要時間2時間46分) 乗り継ぎ 空路、帰国の途へ(所要時間12時間48分) 〈機中泊〉
.....国際日付変更線通過.....					
9	4/12 (水)	東京(成田)着	15:00		お疲れ様でした

ボストン大学研修セミナーを終えて

熊谷 崇

オーラルフィジシャンセミナーの第一回の開催から、約2年が経過しました。多くの方に受講していただきましたが、全員が修了証を手にしたわけではありません。修了証を手にした方でも、日常臨床に戻ると、メディカルトリートメントモデルにのっとった診療を診療所全体に反映させて実践してゆくことは本当に難しいと感じている方も多いと思います。

さて、4月4日から12日まで、オーラルフィジシャンを取得した方々を対象にした、「ボストン大学研修セミナー」をボストン大学の全面的なバックアップのもとに行うことができました。今回の参加者は総勢31名。ボストン大学歯学部の方による3日間の集中講義は歯科のさまざまな分野における最先端の情報を網羅した質の高いセミナーでした。フォーサイス歯科衛生士学校の見学や、開業医の診療所見学もボストン市内の大規模・小規模の都市型の診療所を2カ所、ボストン郊外で開業している診療所も大規模・小規模2カ所の計4カ所見学するなど、参加者の皆さんには単なる研修セミナー以上の経験や発見の多い旅になったことでしょう。また、期間中に何度か催された大学関係者や開業医の先生方とのパーティーなどを通して、歯科医療に携わるものの社会的なステータスや人間性などにふれて、学ぶことも多かったのではないかと考えています。

参加した多くの先生方からは、それぞれに今回のセミナー旅行について、さまざまな感想が寄せられました。ほとんどの方は今回のセミナー旅行をよいきっかけとして自分の臨床を再度見直し、オーラルフィジシャンとしてどのように社会に貢献すべきかについて、新たな模索に入ったように感じられました。そこを突き抜ければ、歯科医師として診療所としてきつといくつかの段階をステップアップすることになると思います。そういう意味では、それぞれに大変意義深いセミナー旅行になったのではないのでしょうか。

また今回のセミナーでは、メディカルトリートメントモデルの実践が歯科医療を行うにあたって特別なものではないということがよくお分かりいただけたのではないかと考えています。ワールドスタンダードの歯科医療においては、それがごく当たり前の手順に過ぎないことがよく理解できたのではないのでしょうか。これがきちんと行われている歯科診療所であれば、本来歯科医師としての会話は成立しません。私達はともすると最先端の歯科医療の情報に心を奪われがちですが、最先端の情報を本当の意味で臨床に生かすことができるのは、歯科医療の基本的な技術やシステムをきちんと積み上げていて、データもよく管理され、自身や診療所の実力を客観評価できる診療所以外にありません。

私はオーラルフィジシャンセミナーで、ワールドスタンダードの診療所づくりが目標であることをこれまで何度も繰り返しお話ししてきました。なぜ診療室が個室でなければいけないのか、必要な検査をきちんと行う診査診断の重要性、歯科衛生士が自分のチェアを持って歯周治療や予防処

置などのメンテナンスケアを歯科医師と連携して行うシステムの構築やそのための教育、エビデンスに基づいた治療を実践するための知識や技術の習得の必要性などを繰り返し強調してきました。しかし、それは私自身が作り上げた歯科医療に対する個人的な理想論ではなく、歯科先進国で診療にあたるためには非常に基本的な概念であることを本当によく理解していただいたのではないかと思います。

大学でも開業診療所でも、その規模の大小や患者さんのターゲットの違いに関わらず、歯科医療に対する基本的な概念はほとんど変わりがありません。歯科診療所の本来あるべき姿を、しっかり確認していただけたと思います。そして、もう一つ大事なことは、どの歯科医療関係者も、歯科衛生士学校の生徒でさえ、社会人として人間として非常にプライドを持って仕事に取り組んでいることでした。かれらのそうした姿を大変うらやましく思いました。私達の仕事というのは、社会的に本当の意味でステータスのある仕事なのです。人間性を磨き、今以上にプライドを持って社会貢献できる歯科医師でありたいと思います。

メディカルトリートメントモデルの実践は、その様な歯科医師になるための最初のステップでしかありません。私達の実践はまだ始まったばかりです。歯科臨床の行く先はまだ奥深く、その先にはより多くの感動と喜びが待っていると信じます。皆さんの今後の健闘を祈りたいと思います。

最後に、今回の研修セミナーがさまざまな方のご協力や努力によって実現できたことに感謝したいと思います。特に、ボストン大学では学長はじめ多くの先生方にこのプロジェクトの成功のために協力していただきました。見学を許していただいた歯科衛生士学校や、開業医の先生方にもお礼を申し上げたいと思います。そして、実際に多くの人と交渉してこのプロジェクトをコーディネートし、実現のために働いてくれた宮本貴成君に心からの感謝を申し上げます。

斎藤直之

ボストン研修感想文

●研修の意義

Oral physician 研修としての今回のボストン研修は、とても重要な意義があったと思います。多くの人たちが感じたように、今回の研修に参加して、私たちが今まで行なってきたことが、間違いでなかったことの確認が明確にできたことは一番大きな意義であったと思います。歯科医療を患者利益に繋がるものにするために行なってきたことは、アメリカ、ボストンにおいてはほぼあたり前に行なわれていることであったと感じます。そのベースに立って私たちは、よりクオリティの高い、歯科医療の技術、情報を得て、患者さんにフィードバックするように努力しなければならないと感じました。ボストン大学での講義では、最先端の情報を多く聴くことができましたが、そのすべてがエビデンスに基づいていること、基本を忠実に積み重ねた上に成り立っている情報であることを痛感しました。私たちは、最先端の情報の目新しさに目が向きますが、それは、基本を大切にした上で初めて生かせることを教えていただいたように思います。

歯科衛生士学校の見学では、歯科衛生士を目指す学生たちの輝く目が印象的でした。学ぶ姿勢がひしひしと伝わってきたのは、そのすばらしい施設だけでなく、教育のシステムが大変整っていることがそうさせているのだと思いました。

開業医のクリニックの見学では、診療室の形は、ドクターのフィロソフィーに基づく形であることを確認することができました。さらなる、ハード面の充実が必要と感じました。

私たちは、メディカルトリートメントモデルを構築していくことの重要性をオーラルフィジシャンコースで教えていただきましたが、それは、すべての歯科医療を進めていく上での基本となることを今回の研修で確認できたと思います。

●研修に参加して感じた今後への責任

診療室の中だけに留まらないチーム医療をどのように作っていくか、真の患者利益となる診療体系を日本の歯科医療事情の中でどのように構築していくか、現在の形の中ですぐに変えられること、変えなければならないこと、社会制度そのものを変えなければ実現できないことなどに整理して、短期、中期、長期の目標として整理する必要があると感じました。

オーラルフィジシャンの役割の必要性を教わってきましたが、真の理解が今までできていなかったように感じました。GP と専門医のチームづくりをしていく上で、どのような役割をオーラルフィジシャンは担うべきなのか、日本の制度の中で構築しなければならないと思います。また、その大切さ、具体的なイメージ、実現の仕方を今後育っていく日本の歯科医師たち、歯科衛生士たちにしっ

かり伝える役割が私たちにはあると実感しています。

●研修を自分の臨床へどのように反映するか

私は、オーラルフィジシャンとして、知識と技術を整理したいと考えました。GPとして必要な、技術、知識を整理して必要なことをしっかり習得したいと思いました。口腔外科医、インプラント専門医、矯正専門医とのチームの結成をいかにしていくか。専門医が日本にはいない歯周治療、歯内療法、修復補綴治療を私自身がGPとしてどのくらいのレベルを目指すのか。

質の高い治療をしていくためのコストの問題をどのようにクリアしていくのか。エビデンスに基づいた確実な治療をしていくためにはどのような形があるのか。現在できる形と将来目指すべき形を明確にしていく必要があると感じました。

今回の経験をもとに現在の診療室におけるチーム医療を、より確固としたものとするために、また、総合力を上げるために共に働く歯科医師を求めたいと真剣に考えました。そのために、歯科医療に対する哲学を共有し、オーラルフィジシャン、GP、専門医として育ててもらうための明確な教育プログラムを構築できるように準備を進めたいと思います。

●要望

とても素晴らしい研修会であったと思います。これ以上望めないほどの充実した研修会でした。これは、はじまりであって、今後は今まで書いた今回を通して感じたことを実現するために、今後続く人たちにこの流れをしっかりと繋げるために、私たち一人一人が努力していかなければならないのだと感じています。

アドバンスとして次のコースを考えるとしたら、オーラルフィジシャンとして必要な技術を整理して、その実習ができれば、さらにいいと考えます。

●問題点

とても素晴らしい体験を私たちはすることができました。今までを確認し、今後を展望することができるとても有意義な研修だったと思います。何も問題点はありません。ただ、熊谷先生や、宮本先生にすべての負担がかかるという状況であったため、とても申し訳ないと思っています。私たちももっともっと役割を担い、参加者全員で作りに上げていくコースにしていければ、今後とも続いていくのではないかと考えます。

●研修開催への感謝

今回のコースは、ボストン大学で教鞭をとられている宮本先生が、いらしたこと、熊谷先生と宮本先生との深い思いが、このような素晴らしい研修コースを作り上げたのであると、とてもとても感謝し

ています。本当に有り難うございました。

先生たちのご苦勞に、報いるためには、私たちが何か行動を起こしていくことが重要であると思います。さらに、今回の経験を整理し、目標を明確にし、できることを明日から実行することがとても重要であると考えます。

私は英語でのコミュニケーションが十分にできるように活動を開始します。世界中のエビデンス、知識、技術を私たちの目指す目標の中に生かしていけるように今日からがんばります。本当にありがとうございました。

太田貴志

あっという間の1週間でした。

さすがに世界中からコンティニューイングエデュケーションプログラムで参加者を受け入れているだけあって

そのホスピタリティには見習うべき多くのものがあつたと感じています。自信に満ちあふれた幅広い対応は確固たるバックグラウンドに裏付けられたものであることを確信しました。

またコンサーバティブな基本的治療がしっかり行われていることの大切さも実感出来ました。

Vandyke 教授のレゾルビレ、Jacobson 教授のインプラントに対する基本的かつ重要なポリシー。すべてメディカルトリートメントモデルに沿ってコントロールされた口腔内であってはじめて生きて来るものであると思います。特に Jacobson 教授のインプラントに対する基本的なコンセプトは声を大にして現状の日本歯科界にアナウンスすべきかと考えます。歯科関連の雑誌をみるとインプラントのセミナーは目白押しです。安易な術式で、ある意味大きな侵襲を加える可能性のあるインプラントの植立は本当の意味で再検討されなければなりません。自分の医院に関して言うならば、ある程度メンテナンスの体制が整ってきているので自分で植立はしないものしかるべき技術をもった外科医と連携をとって治療のオプションを広げていきたいと考えている所です。

ディ・コルチケーションを併用した矯正治療、その術式の利点を考えただけで矯正治療を受けようとする人々に大きな利益をもたらすものと考えます。是非、日本でも普及をはかるべきかと考えます。(ホーンクラフトの問題が立ちはだかっていますが...)

フォーサイス歯科衛生士養成校の見学は有意義でした。提供されている教育プログラム、そしてそれを実践しているハードウェア、これはまさに米国の歯科医療のレベルを象徴するものです。歯科医師の考え方が明確に表されています。日本の歯科衛生士校もまさに日本の歯科医師が考える歯科衛生士像がインプリントされているわけで、その大きな差に必然的な歯科事情の差を痛感しとても残念です。歯科衛生士教育が歯科医師の意識改革なしには期待出来ない現状をなおさら憂うところです。Oral Physician コースを終了しメディカルトリートメントモデルを実践する歯科医師とスタッフが何らかの形で核となっていくことを期待したいところです。

様々な形の専門医との連携、なる程、グローバルな意味でのスタンダードが今回見学した診療所にあることが確認出来ました。私達が目指す診療室のヒントを多く見出すことが出来たと思います。

今回のこのような企画をしていただいた熊谷崇先生と私的な時間まで割いて細部に渡ってきめ細かなコーディネートをしていただいた宮本先生にこころから感謝申し上げます。ありがとうございました。

1. Ninon → Boston

昨年、大学卒業後間もない Dr.向けに開催された日吉歯科でのセミナーでこの Boston 研修の告知を聞き、こんなチャンスは滅多にないと申し込みをした。意気込んで申し込みはしたものの、いったいどんな研修旅行でどんな内容の研修なのか想像が付かなかったので、こんなに充実した素晴らしい1週間になるとは全く期待していませんでした。

“人から与えられるのではなく、自分から何かをつかめ”熊谷先生のお言葉で始まった研修は成田を出発し Chicago へと向かう。明治維新の侍は、世界を知り日本をより良いものにしようと何日もかけてアメリカへと旅をした。現在ではアメリカへとたった13時間しかかからないが、当時の日本人の思いは似ている。World Standard を求め、世界の良い歯科医療を目で見て肌で感じ、日本に持ち帰りたい。そんな思いがあった。



写真は飛行機からアメリカ大陸南部を写したもので、日本にはこのように数個の湖が凍ったような景色はお目にかかったことが無い。歯科においても同じように、日本では得られない体験ができるのではと期待に胸が膨らんだ。

Chicago での乗り換えでは数時間の待機時間が得られた。空港ではインターネットが出来るような設備が各所にあり、空港についてからは携帯から国際電話もかけてみた。日本に居るとほとんど変わりにくく情報を共有でき連絡も取れるので、アメリカと日本の距離の近さを再度認識した。昨今はインターネットでアメリカの歯科書籍も注文でき、アメリカの材料も調べられる。努力さえすれば最新の情報は入手できるので、意外に歯科治療に関してもアメリカと日本に違いはないのでは？と感じた。しかし、1週間後にはアメリカと日本には根本的な考えの違いがあることを知る。



2. April 5

Boston で初の目覚め。日本との時差が13時間あるので昼夜が逆転しているが、昨夜は早めに寝ようとつとめたのでぐっすり寝むれた。

朝焼けと共に車の往来が始まる。高い建物が無いので綺麗に見渡せる。また、Hampton Inn & Suites Boston Crosstown Center と Boston University は比較的郊外にある。というのも、アメリカの病院は低所得層の立地を選ぶとのこと。貧しい人は治療やメンテナンスが受けられないようだ。その為に、卒業したての歯科医師が治療する代わりに治療費を安くしている。それによって多くの人が治療を受けられるようになるということだ。

一般の人は保険に加入しているので、万が一疾患に罹っても一部の負担金を払えばよい。保険加入にも条件があり、半年に一度のメンテナンスが保険給付の条件であるという。つまり、アメリカではメンテナンスが保険の給付条件であるため、メンテナンスに行くことは当然のこととして認識されている。このシステムは非常に良いと感じた。日本の保険給付条件もこうなれば、日本人の口腔の健康も向上につながるだろう。

2つ写真を掲載しているのは BU の看板、色使いが綺麗だった。

Dr. Thomas Van Dyke / Resolution of Inflammation in Periodontitis

全身疾患と口腔内細菌の関連性の実験、炎症と細菌のサイクル、Lipotoxyn と Resolvins の研究は非常に論理的で知的好奇心を刺激された。僅か3時間であったので表層しか理解できなかった部分もあるが非常にクリアで面白かった。心臓への脂肪付着の実験は理解しやすく、臨床における口腔の炎症コントロールの必然性を再び強く感じた。全身疾患と炎症が起きるから細菌が集まり、その細菌によって炎症が起こるといふ炎症のサイクルの話も興味深かった、彼の話からすると歯周病における P.g. の細菌検査や初期の最近へのアプローチはあまり意味が無いことになる。歯周病へのアプローチも180度変わってくるのであろう。そして、Lipotoxyn や Resolvins は実用されれば夢のような薬になるのだろう。様々な壁はあるとは思いが10年先の歯科医療が垣間見れた。



Dr. Dan Nathanson / Important (and Often Neglected) Cardinal Facts for Optimal Bonding

彼の授業を通して気づいたことは、World Standard とは既にあるものではなく作っていくものであると感じた。世界は広く世界各国で進んでいる分野とそうでない分野がある。この差をなるべく縮めて、一診療所においても World Standard の医療を行うには、オンタイムでの情報の共有が必要になってくる。治療においてもメンテナンスにおいても、知らないものを知るために学び日々精進する姿が重要であると思う。けして頑なにならず、いつまでも肝要にかつ堅実に進んで行きたい。

China Town での夕食

初の夕食では様々な先生方が駆けつけてくれた。これも宮本先生の素晴らしい人柄によるものであろう。今回の会では宮本先生に本当に感謝している。彼無にはここまで充実した研修にはなりえなかった。何ヶ月も前からこの日のためにあちこち一生懸命手配してきた宮本先生の尽力の賜物である。



3. April 6



2日目に BU での教室移動中にエレベーター前に患者の権利が掲げられていた。日吉歯科の HP でみたときは衝撃を受けた。この様な掲示を日本で目につけたのは数件の歯科医院である。病院の清掃員に訪ねると、この患者の権利を掲げるのは法律で決まっているとのこと。さすが権利の国アメリカである。診療所に戻ったら早速作製して、個人情報保護法についてと合わせて自分の病院でも掲げたいと思う。

Dr. Zhimon Jacobson / From the Consequences of Failure to the Blueprint for Success

彼の授業はユーモアに富んでかつわかりやすかった。自分はインプラント未経験なので、有益な授業であった。まさか 3 時間で治療の一連の流れと簡単な診断まで講義してもらえなかった。もし、次回機会があったらその先の話も聞いてみたいと感じたし、最後の卒後研修についても興味が湧いた。

Dr. Steven Morgano / Fixed Prosthodontics for Pulpless and Structurally Compromised Teeth

内容はともかくフェルールの大家の話を聞いて非常に嬉しかった。日々の材料の進化、接着に関しては特にめまぐるしく進化していくのでリサーチが追いつかないのはしょうがないと思う。各治療分野に関する **World Standard** が無いこと、そしてアメリカの権利社会であるがための欠点を知った。アメリカは後々歯根が破折したりすると訴えられるために白黒の基準がハッキリしている。別の先生に、価格の設定に大きく **Implant** 業者が絡んできているために、失活歯を治療するよりも安い **Implant** を患者が選ぶと聞いて驚いた。

アメリカの医師は一人一人が専門分野を受け持つことで、多くの歯科医師が一つの診療に責任を持っているということ。本当に素晴らしい。日々の診療で一つ一つ真剣に治療しているよう努力していると、周りの友人の保険診療だから…という言葉に惑わされる時がある。しかし、そういった気持ちが日本の歯科診療を駄目にしてしまうと思う。患者の口腔内を守るために、明日からも一つ一つに責任を持ってきちんと診断・治療・メインテナンスして行きたい。



BUの廊下に掲げてあった **Our mission**。意思の明確化が日々の診療を支える。日本へと帰ったらもう一度きちんと整理して、歯科医師としての **mission**、診療所としての **mission** を明確化したい。

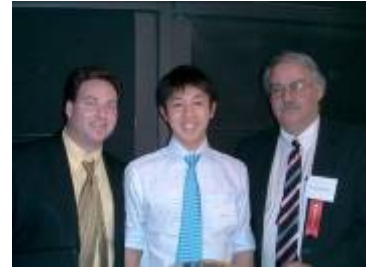


4. April 7

Dr. Donald Ferguson / Rapid Orthodontics Following Selectiva Alveolar Decortication

Ferguson の斬新な手法に驚かされた。今回の研修の中で一番最先端の実用的な歯科治療だと感じた。今後の進展が非常に楽しみだ。

二方の先生と出会えたのも良い刺激となった。

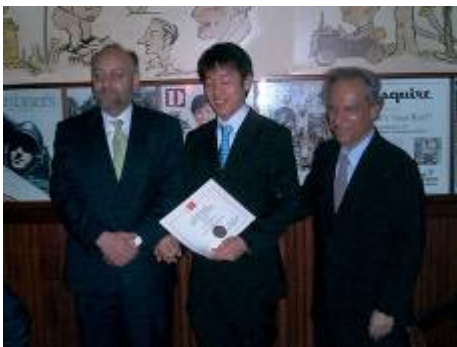


Dr. Louay Abrass / Predictable Endodontic Therapy

アメリカの歯内療法における臨床は以前から興味があったので自分にとってはエキサイティングな講義であった。内容は東京医科大学の小林千尋先生が書かれたクリニカルエンドドントロジーと大きく変わり無かく、やはり突き詰めると限られたエビデンスからの話になるのであろう。しかし、歯内療法への考え方やアメリカにおける臨床の突き詰め方を学べて有益な授業だった。

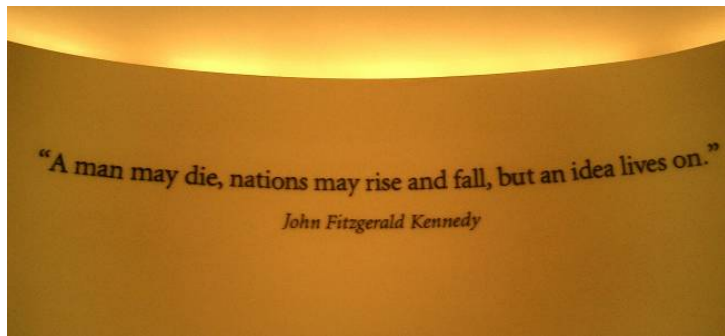


短い3日間であったが非常に有意義だった。広い世界の中のアメリカのまたその中の Boston の診療を見て自分の考え方や意欲や方向性がまた変化した。やはり百聞は一見にしかず。BU だけでなく世界中の先端医療を目にしたい。それにはまず英語を学ぶこと。そして、計画をたてて実行してしまうこと。日本に帰ったらまた海外研修に向けての計画を建てたいと思う。



5. April 8

休日は Boston のハーバード大学や JFK ライブラリーを電車で回ったり、街中を歩き回った。
最も印象に残ったのは JFK の言葉 “A man may die, nations may rise and fall, but an idea lives on”



6. April 10

フォーサイス衛生士学校の見学では、最先端の設備やコンセプトやシステムを経験し、日本においてまだまだ変えなければいけないことが沢山あるのを肌で感じた。衛生士学校で気づいたことを箇条書きにしてみたい。

- ・感染予防対策が徹底的にされている。

ディスプレイの印象トレー、パテの印象剤

1人1人の患者を診療する間、触る場所は全てテープが貼ってある。診療が終わるとまた全て張り替える

ボールペンや引き出しの取っ手までも貼ってある

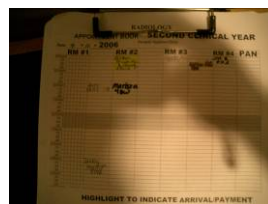
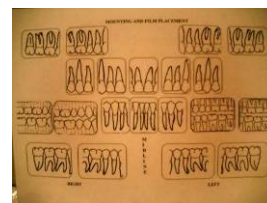
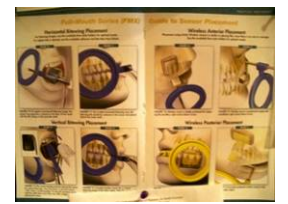
衛生士が皆、長袖の白衣を着ている

患者は黒のゴーグル、衛生士は透明のゴーグルまたはサージテルを使用

- ・X-Ray が設置されている部屋に仕切りが無い
- ・患者が自分自身で排唾管を持ち、スピットンがおいていなかった。
- ・綺麗な X-ray が撮れるよう、咬翼法と二等分法のどちらも撮影時のフィルムのポジショニングが壁に貼っている。また、撮影開始の際はこのトレーにフィルムを設置し、今時分がどの写真を撮っているかを把握する。

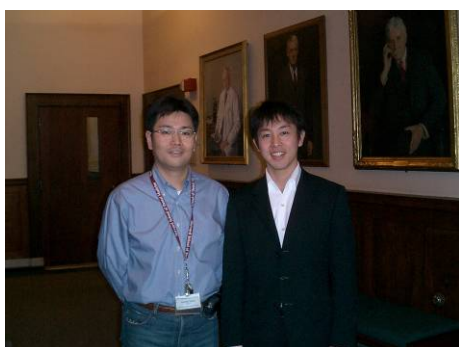
- ・ホワイトニングは衛生士が行う
- ・衛生士は治療に際して必ず同意書を書いてもらう
- ・名刺の裏にアポイントメントを書いて患者に渡す
- ・感染症の患者には頭からシールドをかぶり、白衣の上にさらにディスプレイのオベ着をまとう
- ・グローブはノンラテックス（アレルギー対策?）
- ・受付のデスクは段差になっている
→車椅子や老人や子供用か?
- ・最初に患者に記載してもらった Information の中に“Is it important for you to keep your teeth?” という質問があった。

- ・ユニットの引き出しを見せてくれたが、意外にその中は器材が少なかった。



昼食後の休憩に **Harvard Dental Center** へ向かう。思ったよりも小さいがかなりセキュリティーが厳しい。ID 無には入れない。大学は新しいが、病院はしっかりとした建物が歴史の深さをものが建っている。**Harvard** の診療室内は意外に小さく、専門分野ごとに部屋になっていたりパーテーションに区切られていたり様々。ここに来て気付いたのは、歯科はあまり大きな医療器械に依存しすぎない。つまり、システムや技術や材料に依存するということ。アメリカの1診療所でも小田原の1診療所でも、その気になれば何でも出来るということ。

昼食中に聞いた話だが、アメリカでは歯科医院の転売が多くあるようだ。たとえば、引退したいと思うと転売の契約を結んで代診を雇う。3年ほど雇用と言う形で引継ぎを行い、最終年度の売り上げの8割で被雇用者が医院を購入する。その後は、前院長が雇用されると言う形になり週2・3日勤務しセミリタイア生活を楽しむという。

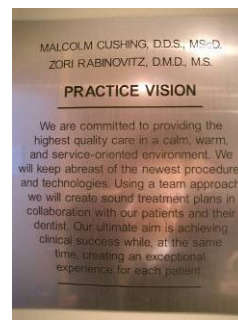
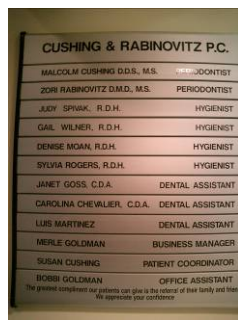


CUSHING & RABINOVITZ P.C.

Rabinovitz のクリニックは郊外のショッピングモールの2階に入っている。やはり、郊外のクリニックでも専門医がチーム医療を行っていることに非常に感心した。そしてクリニックの名前の下には Dr.の名前が記載されている。アメリカの歯科医院はなぜか看板がありません、法律で決まっているのか？と思うぐらい歯科医院の看板がない。

Rabinovitz のクリニックで気付いたことを箇条書きに記す。

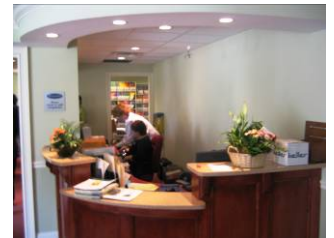
- ・受付はやはり高い場所と低い場所にわかれている。
- ・受付の隣に勤務者の名簿が掲げられている。やはり、医院の人員を紹介することで皆に責任感も生まれるし、患者も安心感が出るので良いと思う。
- ・ここでも医院の Mission が掲げてある。素晴らしい。
- ・診療中に触る引き出しや器具にまで BU と同じようにテープが巻いていた。
- ・コンサルを行う部屋がある
- ・白衣は全て使い捨てで一着 \$ 1.50 とのこと
- ・衛生士のメンテナンスは1時間の予約で行っている。
- ・やはりここでも X-ray は診療室内にある
- ・もちろん全て個室



Metrowest

Metrowest は開院したてで、郊外の家族を対象とした歯科医院。そういった意味で他医院と違うのはユニットの足元に子供の椅子が置いてあったり、子供にあげる為のシールが置いてあったりと子供への配慮がある。また、気付いた点を列記する。

- ・ X-ray がやはりユニットごとに設置されている。
- ・ 廊下が絨毯で診療室はフローリングだった。
- ・ 衛生士用の個室の外には、名前を差し替えられる部屋札が貼ってあった。
- ・ ここでもアポイントの記入は医院の名刺の裏に記入する。



Sowles Trauring

東京で言うならば青山のようなお洒落な街の中心に立地する都心の高層ビルに建つ **Prudential Tower**。その中にある **Sowles Trauring** とうい歯科医院を訪れた。

高級モールの中を抜けビルにたどり着くと、ID も厳しく、あらかじめ用意された ID シールを胸に貼らずにはエレベーターにも乗れない。エレベーターを降りると正面には品のある木目のプレートが目に入る。その隣には勤務している方の名前と役職が記載されたプレートがあり、その下には“**One of Boston’s most Trusted and Respected Dental Group Practices**”という言葉が書いてある。

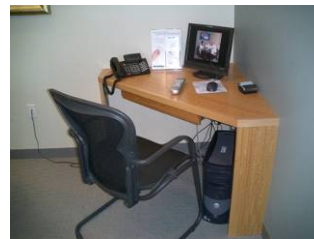
広々とした待合室と受付も品格があり、笑顔のスタッフが迎えてくれる。受付の横には会計のテーブルがありその後はカルテ庫やマネージメントの部屋や会計の部屋などがある。

長い廊下に入るとまず目にするのはコンサルテーションの部屋、そしてレントゲン室、診療室へと続く。診療室はもちろん個室でどの診療室からも外が眺められるようになっている。

診療室にはそれぞれにモニターが付いていてそのモニターにはソフトウェアで常に丁寧に説明できるようになっている。ここのオフィスにもそれぞれの専門医がそろっているので、部屋によって設備はやや変わる。アメリカで最も使用されている歯科材料は **Kerr** だと聞いたことがある。やはり机の上に置いてあるのは **Kerr** の材料が多かった。

すでに診療室内に **X-ray** があるのには何も違和感もなくなっている。

いくつも並ぶ診療室を抜けると、技工室がある。技工物を入れる箱には技工所に送る際に必要なものにチェックをつける項目が記入されている。アメリカは合理的でこういうところは日本に持ち帰って倣おうと思う。器材はすべて食洗機で現れた後に消毒にかけられる。また、器材も使った **Dr.** ごとに箱に入れられ返されるようだ。



*One of Boston's Most Trusted and Respected
Dental Group Practices*



Dr. Papadopoulos - Dr. Sanchez & Associates Dental Care Group

高級住宅街にある診療所。歯周病専門医と補綴専門医の協同オフィス。設立当初は世界最大のオフィスをつくろうとしたが、収益効率の関係から現在のようなオフィスになったとのこと。初診時にしっかりと資料をとり、患者に診断表をプリントアウトして説明する。緊急に治療したほうが良い歯は赤、気をつけたほうがよいところは黄色、大丈夫なところは青で記すとのこと。それは治療内容と値段を説明するツールとしても用いる。

診療室は外が見えるようになっている。チェアの横にはヘッドフォンが置いてあったので、ホワイトニングのときなど音楽を聞いてリラックスできるようになっているのだろう。特徴的なのが、撮影室とカルテ倉庫。撮影室では補綴物が入った後に写真撮影をしてメールで添付して送るとのこと。ハリウッド女優なども来るので設置したとのこと。審美をやるならば欠かせないと言っていた。

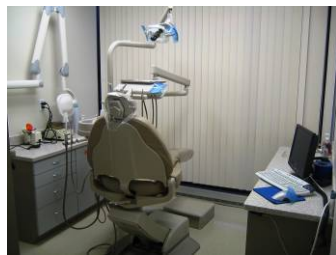
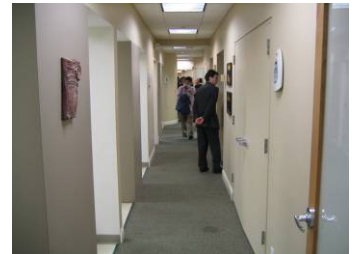
そして、審美というだけあって技工室にはパスカルマニエの有名な表が貼ってあった。この技工室は常在しているテクニシャンがいるわけではなく、自分用の技工室だそう。技工室には流しの上にスパチュラやドライバーをつけるマグネットがあった。早速日本で活用したい。また、印象する道具を見てみると全てディスプレイブルなのに驚いた。作業しやすそうなデスクで自分も開業したらこのような技工室を作りたいと思った。

驚く事にカルテ倉庫は大きな大きな鍵がついている。まるで大金をしまうかのような頑丈なものだ。それだけ情報を守るというイメージをアピールするためだろう。

その他、パソコンデスクが置いてある部屋に通され、収益に関する表を見せてもらった。各個人が目標収入を設定してそれに対して到達できるかどうか、どれほどあと治療しなければいけないかを常にチェックしているとのこと。

今回見学した中では一番、自分が開業するのならばこのような診療所をつくりたいと感じた。





総括

今回の **Boston** 研修は非常に多くの刺激を受け、大きな大きな影響を受けた。アメリカの診療の良いところは、専門医制度による徹底的な治療と役割分担による各歯科医師の負担軽減。そして、専門医としての自覚があるだけあって、エビデンスにきちっと基いた治療を行っている。悪いところはやはり訴訟社会ということ。だが、訴訟社会だからこそ歯科医師も真剣だし患者も真剣。日本では治療費が安いせいか、患者自身が悪くなったら治療すればよいという感じがある。これは、単に保険制度や患者の責任ではなく歯科医師の責任でもあると思う。歯科医師には患者を教育する義務があり、最新のよい治療を説明する義務もある。1プロフェッショナルとしてその自覚をはっきりともって診療していきたい。

また、アメリカの保険給付条件が6ヶ月に1回のメンテナンスだという。日本ではメンテナンス自体ようやく浸透してきたがまだまだである。これもまた歯科医師としてやるべき責務だと感じる。

最後に今回この研修を通じて素敵な先生方に会えたこと、そしてコーディネートして下さった熊谷先生、宮本先生、その他多くの先生に心から感謝したい。

井上敬介

ボストン研修

海外留学をあきらめていた自分がいました。結婚をし、子供ができて、開業のための土地を買いました。大学を変えようと、熊谷先生に水道橋病院に来ていただき講演していただきましたが大学は変わりません。まわりの開業した先生には、開業してない先生に開業の大変さはわからないよと言われ、また、父の歯科医院は利益を生まない医院となっており、まさしくこれから理想の医院作りのため開業をしようとしておりました。留学ができないのであれば、せめて海外の研修に参加しよう、そんな気持ちで今回の研修に参加しました。

今は、ボストンからの帰りの機内でこの感想を書いています。コンピューターを開き一行書き終えたところ、となりの人が話しかけてき、そして逆の隣の人とも話が始まり、会話がはずんできました。気のいいしゃべり好きなおばちゃんは、僕に一生懸命英語を教えてくれ、これは英語のまさしく実践勉強だと思い話に夢中になりました。感想を書くより、英語の勉強をしている自分はここで自分の気持ちはすでに決まっていました。海外留学です。

研修の初日を終えたときから、徐々に気持ちが高くなり、熊谷先生にも絶対行きなさいと声をかけていただき、最終日までには多くの方から絶対に言ったほうがいい、一回限りの人生、後悔しないように、このチャンスを逃さないように、との励ましの言葉をいただきました。実際に行けるかは判りませんが、行きたいという思いになったのはこの研修のおかげです。もちろん今までも行きたいという気持ちはありましたが、行くことはあきらめていました。日本で9年間臨床、研究、教育と行ってきた後に熊谷先生の考えであるオーラルフィジシャンの考えのもと、ボストン研修に参加できたことは、実に私にとって有意義なものでした。また、オーラルフィジシャンという統一の考えを持った先生方と参加して、いろいろな話ができ、刺激を受けたことはそれをまたすばらしいものにしてくれました。

ここで明確になった目的が生まれました。自分は4代目の歯科医師として、愛知県の常滑市で生まれました。自分の親たちが行ってきたことが悪いことだとは思いませんが、現状では、私が生まれて約30年間の間に目覚しく歯科医学が進歩したにもかかわらず、口腔内の環境がほとんど変わっておりません。そのような原因はいろいろあると思いますが、国や、歯科医師会、大学に一般開業医それぞれに原因はあると思います。私の立場で、大学を変えようと思っても国を変えようと思ってもどうにもならないこともわかりました。しかし、開業医である熊谷先生は、一人、それらを改善するためあらゆるジャンルの人と戦ってきたことが伝わりました。日本の歯科界において、救世主となる真のリーダーであると思います。これは革命です。さらに、これまで熊谷先生が築き上げてきたものをさらに日本中に浸透させる必要があると思います。患者の真の利益のため地域の患者に医療を提供するのはもちろん、日本国民全員が健康になるようにしなければいけないと思うのです。そのためには海外の状況を、現状を正確に理解していなければなりません、いまや、情報の時代でありどんなところにもさまざまな情報が引き出せます。しかし、やはり、現実をみて体験し、感動することが必要であると思います。そして、その感動をまた、多くの方に感動してもらうために感動を

広める必要があるのです。今回受けたいくつかの感動を、多くの人に与えることが目的です。

今回の研修での感動の例を挙げれば、ペリオの話では“塗薬を塗るだけで歯周病が治ってしまうんだ”という感動です。もちろん今はまだ動物実験の段階ですが、そのような感動から、いくつものことが学べ、興味が沸き、さらには10年20年後の医療のことを視野に入れた治療が行えるようになるのだと思います。また、インプラントの話では、私が、大学病院でインプラントを専門に行っているから思うことかもしれませんが、これほどインプラントは患者にとって有効的なものであるとわかっているのに、アメリカにおいても大学で学生の講義実習が組まれているところがほとんどないということとを調べ改善しようとしている話を聞いたことです。教育機関は日本にもあります、しかし、その教育のシステムはいまだ確立されていないのが現状であり、その点ボストン大学ではさまざまなコースを行って教育を充実されていることに感動しました。日本で、若い先生にCTの読像をさせ、インプラントの埋入計画を立てられるようにするのに何ヶ月、何年もかかります。しかし、今回の研修では約30分で、一通りの内容が学べたのです。これは私にとっては驚きであり、感動です。短時間で理解するためのツールいわゆる教育のシステムがすでに構築されているのです。このような教育システムを学ぶことも非常に感動しましたし、この感動を日本の教育者にももっと体験してもらいたいです。教育機関では、フォーサイス衛生士学校を見学したことも感動を得ました。臨床実習の現場をみさせて頂きましたが、なんとと言っても衛生士がかっこいいのです。自分に自信を持って行っているように見えますし、アメリカでは衛生士という地位が確立されているのです。優秀な講師陣と確立された教育システムこれらにより、すばらしい衛生士学校が存在するのです。さいごにプライベートオフィスの見学では、熊谷先生が日本で言っていたオフィスのありかたは理想や夢ではなく、当然なものとしてアメリカに存在し、衛生士についても最も重要なポジションであるということを再確認しました。

これらのいくつかの感動は、今回この研修に参加しなければ得られなかったと思いますし、このタイミングで、熊谷先生から声をかけていただいた私は幸せであることに気づきました。日本に帰りましたら、この感動を多くの後輩に伝え、また、さらに自分が成長できるように留学と、開業に向けての準備をしていきたいと思います。

最後にひとつこうあればよかったという項目を挙げるとすると、参加メンバーによる自己紹介や、それぞれのメンバーによる簡単な症例報告等が事前にできていればより有意義であったと思われます。しかし、おそらく企画する側の大変さというものは十分理解しております。これだけの感動をいただければ十分ではありますが、もし私に協力できることがあれば次回からは何でも言うていただければ是非協力させていただきたいと思います。、宮本先生には本当に感謝したいと思います。

申しわけありませんが、バッテリーがなくなりそうです。また、スタッフミーティングまでに詳しくまとめ報告したいと思います。

高橋周一

ボストン研修を終えて

2006年4月11日 午前0:36 日本時間 午後13:36

今、帰国のための荷物の整理を終えました。

4月4日、桜満開の出発の日は私の46才の誕生日でした。

成田に集合した31名のメンバーで期待に胸を膨らませながらシカゴを経由して

ボストンに到着するまで、機内ではほとんど眠れませんでした。

翌朝は雪がちらつく中、徒歩10分程でボストン大学歯学部に着。スタッフの方々に

あたたかく迎えられ3日間の講義が始まったわけです。

時差ぼけとの戦いではありましたが(ほとんど負けた)世界的にも有名な各先生方の情熱や私達に本当に親身になって講義をさせていただいている姿に感動いたしました。

最先端のトピックスにも驚きましたが、基礎的な概念や歯科医療のゆるぎない哲学も十分に伝わってきました。

又、ボストン大学だけでなく、ハーバード大学、タフツ大学にいらっしゃる日本人の先生方による通訳のおかげで苦手な英語の講義もスムーズに理解でき大変ありがたかったです。

講義の合間にも校内ですれ違うさまざまな国の人種の学生達が、はっきりとした目的意識を持って勉強している姿に、自分がいかに甘い学生時代を過ごしてきたかと恥ずかしく思いました。

3日間の講義の間、毎晩各教授の先生を中心として食事会の用意もしていただき、他のメンバーとの交流も深まり、数々の有意義な話をすることができました。

ZORI先生の自宅でのパーティーとプレゼンテーションも1年の思い出となるでしょう。

衛生士学校の設備の素晴らしさ、衛生士を目指す臨床研修中の学生からも自信と誇りを感じました。

教官の方々の本当に親切な対応と笑顔に教えられたことも沢山ありました。

4つの開業医での見学は診療に対する考え方や方向性がとてもはっきりとしていて具体的に自分の診察室や院長としての考え方との比較ができとても参考になりました。

私は今回の研修に関わっていただいた方々が歯科医療に関わりを持ち生活をしていることにとっても誇りと喜びを持っているという事実を強烈に感じました。同時に日本における歯科医療従事者も早くそのようにならないと、患者利益を追求した歯科医療をさまざまな方向から早く充実させないといけないと痛感しています。

熊谷先生に出会ってからいくつかの覚悟をしてきましたが、さらに大きな覚悟と決断をする時が来るようです。

日本の歯科診療が世界に誇れる様に、海外からの研修を自信を持って受け入れられる様にまずは自分の医院を世界最高水準にしなければなりません。これからの日本の歯科医療を担う次の世代の人々のためにも自分がすべきことが、より明白になりました。

書ききれないほどの大きな事を学びました。書ききれないほどの親切な気持ちと情熱を感じました。研修会を企画していただいた熊谷先生はもちろんのこと、誰よりも宮本先生に感謝いたします。私の人生の中でもこの様な思いとしたことはありません。宮本先生の努力と人柄と心配りによって我々メンバーがこんなにも貴重な経験をさせていただき ありがとうございます。

46才の誕生日 7日間の最高のプレゼントでした。又お会いできる日を楽しみにしています。図々しい様ですが、来年は日常的な英会話が出来ると仮定して学生やプレジデントが受ける講義にも参加してみたいと思います。又開業医においては実際の診療の流れを受付の対応から半日～1日かけて見てみたいと思います。我々だけでなく多くのDH・DAにも体験させられる様なカリキュラムが出来ると素晴らしいと思います。

P・S 皆様 お疲れ様でした。帰国早々にさまざまな現実が待っていますがぜひ前向きにそして楽しく目標を達成しましょう。お元気で またお会いしましょう。

西山和彦

昨年このボストン研修に申し込んだ時にはまだまだ先の事と思っていましたが、開業準備に追われていた私は気がつくや4月4日の朝を迎えていました。まだ開業して3ヶ月しか経っていないので、まず医院の診療システムの構築、運営に追われ運悪く今年4月からの保険改正によってとにかく慌ただしい日々を送っていました。しかし成田空港のロビーでお会いした熊谷先生をはじめ今回の研修に参加される先生方の希望に燃えた目を見た瞬間に昨日までの疲れが消えてなくなりこれから始まるであろうアメリカの一流の先生方との出会い、また日本のシステムとは大きく違うアメリカの歯科界を直接見聞出来る幸運に胸が高鳴りました。

日付変更線を越えているので米国に到着した翌日は時差ボケもピークに達していましたが、朝からトーマス・ヴァン・ダイク教授による歯周病の講義が始まり研修会のムードは一気に緊張したものとなりました。そして教授の口から発せられる言葉は驚きの連続で久しぶりに知識を得る喜びを感じました。

世界の一流の先生の話を通じて自分の人生観にも影響を与え小さな日本のシステムの中だけで歯科というものをとらえていた大きな間違いに気付かされました。

研修は3日間、休む間もなく続き、そのムードが最高潮に達したのは、全ての講義終了後に行われたボストン大学学部長主催のレセプションでのサティフィケート授与式でした。6人の教授から講義をうけ知識欲が十分に満たされた満足感とボストン大学からの歓迎の言葉を聞いて今回の研修会が自分の可能性を拓いてくれるものとなることを初めて確信しました。と同時にこのような研修を積み重ねた私達が日常の臨床を通じて患者さんひとりひとりに知識と技術を環えする事が地域のレベルを上げる意味においても最も大切な事だと思いました。日本から来た私達に休憩時間も惜しんで長時間に渡り講義して下さいボストン大学の教授達から本当に多くの事を学びました。

また今回の研修会を企画し、また力強く私達を引っばって下さった熊谷先生、通常だとほとんど不可能だと思われる一流の先生の講義をコーディネートして下さい、最終日には術工学校の見学、4軒の開業歯科医院の見学まで企画して下さい宮本先生に心から感謝いたします。特にこのような研修会で開業医院をかなり丁寧に見学させていただいたことは二度とないチャンスであったと思います。医院のスタッフ達は私達のわがままな要求にイヤな顔ひとつ見せずに対処して下さいました。そして宮本先生をはじめ通訳をして下さった在米の日本人の先生方から直接米国の歯科事情を聞く事ができとても勉強になりました。

今回の研修会でもう一つ得たものは日本での Oral Physician グループの連携です。年代も地域も違いますが志を同じくした先生方と一緒に学び議論出来た事は今後の歯科臨床を行うにあたって大切な財産となりました。日米の交流、また日本国内での活発な交流がまた新たな希望をつくりあげていくものと思います。

学び続ける事の大切さを学びました。ありがとうございました。

井上貴詞

ボストン研修旅行を終えて

研修旅行に参加するにあたって正直あまり期待をしていなかった自分がいました。日本でも研修はできるし、日本の保険治療のシステムのなかではアメリカの考えはあくまで参考にしかないのではないかと思っていました。しかし今回のボストン大学研修を終え海外の歯科教育レベルの高さに驚嘆しました。日本の教育システムではあくまで教科書のながれに沿って授業が行われ、なぜ？という疑問を解決することは少なかったようにおもわれます。ボストン大学ではひとつの内容に対してとにかく徹底して疑問を解決し、さらに臨床の現場での疑問点までも解決してくれました。ようするに。こちらの疑問点が次から次へと解決できるような授業が行われていました。自分もここで学びたい。いまならまだ間に合う。そんな気持ちがほんの1週間で生まれてしまいました。それだけ日本の教育と違うのです。

衛生士学校の見学。これもすばらしい、の一言です。彼女達に「あなたの医院も同じようなシステムでやっているの？」と聞かれました。自信をもってYES、といえない自分がすごく恥ずかしく感じました。こうになりたい。スタッフにも同じこの感動を伝えたい。そんな気持ちでいまいっぱいです。

毎日の臨床の中でモヤモヤしていた何かがこの研修を終えるにあたって明確になってきました。3年後、5年後、10年後の目標設定をここに宣言したいと思います。

3年後・・・海外留学。

5年後・・・留学で学んだコンセプトを日本での臨床に生かす病院のシステム化。

10年後・・・歯科衛生士学校を設立し歯科衛生士の再教育の場の実現。

最終日のボストン開業医見学にあたっては、自分が思い描いていた夢は実現できる事を再確認させていただきました。当たり前のように衛生士が独立してメンテナンスを行い、誰がみてもすばらしいと思える病院がそこにありました。

自分がボストンで感じたこの思いは、日本の多くの歯科医も必ずこうになりたい！！と思わずです。でもなぜできないのか？

そこには・・・やるか・やらないか。ただそれだけだと思います。

そのためには正しい教育が必要であるということ。臨床の場で即戦力となる技術力を習得すること。これは日本では学べません。僕はこの研修旅行においてそのスタートとなる場をいただけたと思っています。この機会を逃したくありません。スタートラインやっとうちました。ゴールは険しいけれどみえてきたような気がします。

このような機会をもうけていただいた熊谷先生はじめボストン大学の講師の先生方には心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

渡辺征男

ボストン研修感想

今回のボストン研修では、多くの素晴らしい経験をしました。まずは、ボストン大学での3日間ですが、一般的に開業してしまうと時間も取りづらくなりますが無理をしてでも受講した価値があると感じました。日吉歯科診療所及び宮本先生のおかげで質の高い講義と実際のアメリカの歯科学生の雰囲気を受けられたので楽しめました。

さらに連夜のパーティー、Dr.のお宅でのバーベキュー、プライベートセミナーと盛りだくさんの内容ですし、現地の日本人歯科医の方も呼んでいただき、多くの生の声を聞くことができたのも大きな収穫だと思っています。

歯科衛生士学校にはあまりにも素晴らしい設備、アメリカでの衛生士教育の理念を感じられる点から、かなり驚かされました。実際にルートプレーニングレントゲン現像をやっているのも診ることができ、すぐにでも衛生士さんを連れて見学させてやりたくなりました。ホワイトニングのカスタムトレーを技工室で作っているのは意外で、アメリカでホワイトニングのニーズが高いことの証明をしていると感じました。

開業医の見学はタイプの異なる4件もの診療室を見学できてよかったです。

日吉歯科のお手本には異なっているのもわかりましたし、どこも清潔が行き届いており自分のオフィスと比べ、まったく異なるので反省させられました。

今回の滞在中は常に日本との違いを意識しておりましたが、やはり制度の問題が大きいのは明らかでした。日本とアメリカもトップクラスの歯科医療は大きな差はないと思われませんが、平均的に考えると大きな差があるように思います。

教育システム、学生の室、専門医制度など良い点は多いと思われれます。匡、医療費が高すぎるため受診できない人が多いことや訴訟が多く白黒はっきりつける傾向が強いことは悪い点ともとれると思います。

今回感じたのは、アメリカは全体的に合理的に考えるようで、歯科は「医療」というより「ビジネス」と感じているようでした。人権的にもアメリカ人と日本人ですと違って当然かと思えます。

これらのことは研修前からある程度知っていたのですが、実際に現地で見たり、聞いたりして、確認したことに意識があると考えます。他のオーラルフィジシャンの先生方ともコミュニケーションをとれて、同じ情報を共有したことも素晴らしいと思っています。

ぜひ、これらの経験を自分の診療所スタッフ、行政、歯科医師会などへ伝えていき日本の歯科医療が世界標準になるよう努力したいと思えます。

改めて、このような機会を与えてくださった関係者の皆様へ感謝したいと思えます。

(要望)

今回の研修はすばらしくまったく不満はありません。いろいろと大変だったと思われれますが、今後もしか先進国の海外研修を強く希望します。多くの問題点もあるとは思いますが宜しく願います。

(気づいた点)

行く前に少し情報が不足していた感じがあることと、メールの連絡がいない先生がいたので大変だとは思いますが、連絡などの点は改善すべきと考えます。

鈴木勝美

•Dr.Thomas Van Dyke

最初にこの講義を開き驚きとともにエキサイティングな気持ちになった。このような最先端の研究に触れられることができ継続的教育(勉強)の大切さを知った。もっとレクチャーの時間が欲しかった。

•Dr.Dan Nathanson

ボンディングの歴史は加分程度にして現在のボンディングの最適な使用法　そして将来のボンディングの方向性等過去よりも将来について時間を使って欲しかった。

•Dr.Zhimon Jacobson

インプラントの学習における問題点に始まり失敗例の提示がありインプラントの治療の流れの中でのレクチャーがとても系統的で理解しやすかった。CT 読影のハンズオンもあり集中がとぎれなかった。

•Dr.Steven Morgano

現実の日本で治療とレクチャーの内容がギャップがあり整理がつかないでいる。

•Dr.Steven Morgano の考えは理解できたと思う。無髄歯のフラクチャーとポストの関係が理できたので注意し臨床に応用しようと思う。

Dr.Donald Ferguson

急速矯正という最先端のテクニックを知り驚きとともにエキサイティングな気持ちになっている。日本で行われる日を心待ちにしている。

•Dr.Jouay Abrass

歯内療法について専門医の考え方治療方法が理解できた。基本をしっかりと理解した上で治療が必要なことを再確認した。

衛生士学校の見学、歯科医院の見学はカルチャーショックを受けた。日吉歯科がワールドスタンダードであることが確認できた。

これからハード面においての道標が出来たと思う。数年内に実現できるようにソフト面も含めて考えていこうと思う。

今回の歓迎ぶりには驚いた。またうれしかった。一部レクチャーの内容については検討も必要だと思うがそれ以上に全体が計画的に計画されており主催者の意図がはっきり的確に理解できた研修会であった。

このコースを企画していただいた熊谷先生、宮本先生に感謝申し上げます。
今後ステップアップしていき振り返った時に診療においても人生においてもターニングポイントであったと感じられると思います。

要望①ボストン大学におけるペリオやインプラント等、各科の研修会

②スウェーデンでの研修会

少なくとも数年に1回の研修会の参加実現をお願いいたします。

ありがとうございました。

長門佐

2005年6月12日、第三期 Oral Physician を終了しかつ Oral Physician の certificate までいたした時、超前向き志向になっていたと思います。ボストン研修があると聞いて「これは絶対行かねば」と…。ところが期日を余して申し込んだにもかかわらず「欠員待ちの28番目です」とつれない返事。でも certificate を受けた人が優先されると聞いておりましたので高を括っておりました。その後なしの礫！ほぼ諦めておりましたが年も明けた1月10日、JTB からのメール便で空きが出ましたとの連絡がありました。

でもとても驚きました。何故か…。欠員の締め切りも着いた当日の1月10日だったからです。北陸地方はこの2、3日の大雪でメール便も数日遅れで到着したらしいのですが。即、決断をいたしました。

前置きがとても長くなりましたが、今回のボストン研修に参加していきなり Dr. Van Dyke の時差ボケを flush される様な内容でとてもビックリ致しました。これは5年、10年後の Pevio が変わるぞっと…。

また2日目は Dr. Jacobson の話では 99% CT scan を撮影すること。パノラマや模型のみで目測でやっている自分がとても恥ずかしく思いましたし、アメリカの訴訟社会の難しさについても学ぶことができました。気になることが1つ。モリタ3DX の購入についてはちょっと困ったな…。

3日目の Dr. Ferguson の corticotomy については以前…と言ってももう20年前口腔外科として研修していた頃名古屋市内の矯正歯科医の依頼で corticotomy を行っており懐かしい思いで ope のスライドを見させていただきました。ところが自分がやっていたことといえばラウンドにて皮質骨に対して Line を入れるだけで dot を入れることも、もちろん、bone graft を入れる事をしていませんのでいい加減な事をしていたなあ…と反省しきりです。きちんとした勉強をし corticotomy を理解していた訳でもなくさらにその？後も見えていない…。恥ずかしい思いで今後ますます勉強せねばと思いましたし、この分野に対しての期待が高まった思いです。

さらに昨日の Forsyth Dental Hygiene Institute については DH のレベルの高さや、その地位の高さ、収入の高さにまた施設の豊かさ等にも勉強させられました。私たち日本の歯科医は DA と DH の違いをわかっているのだろうか。今回のボストン研修で最も勉強させられたことです。いかに DH を DH らしくしてもらうか、またコレを活かせるきちんとした Dr になれるか。さらに system を変え新しく向上して行かねばならないと、という思いです。今後困った壁もあるでしょうが、少しずつその壁を崩して頑張ろうと再考した次第です。

眠いのでここまで…。いつもの事ですがなかなかハードでした。でもとても有意義でした。おやすみなさい。

田口章太

ボストン研修の感想

今回のボストン研修については申し込んでみたもののやれるかどうか、自分の体力がついていけるだろうか自問自答の毎日でした。ある日テレビを見ていたら「行動しないで後悔するよりも行動してみて後悔する方がマシである」という言葉を見ました。

その時私の心の中できっぱりとボストン行きが決定しました。憧れのボストン大学の教室の椅子に座ったときの感激は言葉では言い表せません。そしていきなり VanDyke 教授の歯周組織の再生に関する最新の知見を教授戴きその感激はさらに増幅いたしました。

それぞれの教授たちは真摯に私達を導いて下さいました。Jacobson 教授のインプラントに関する講義、そして、Ferguson 教授の Decortications に関する最新の知見は強烈でした。

Morgano 教授の無髄歯に対する補綴処置の中で既成ポストコアーに関するお話がありましたがとにかくあたらしい歯科機材に移行しがちな毎日の臨床ですがやはりいいものはいい。物を科学的に検証しその価値を見出されていることは驚きであり、私としては警鐘でした。

「自分に投資なき者にはリターンは無い」と言いますがあえてリターンは求めませんがこれからの歯科臨床として、限りなき精神的なリターンを与えてくれたことは事実です。

今のこの文章を BBQ の後、ホテルの一室で書いています。Rabinowitz 先生のバーベキューを焼いている姿、30名以上の人を自宅に招いてのパーティーそしてその後のプレゼンテーション。感謝の気持ちで一杯です。今日はボストン研修を企画して下さいます。熊谷先生、宮本先生、ボストン大学関係者の皆様様に心より感謝申し上げます。

BBQ パーティーの後記す。

(歯科医院見学ツアーの感想)

第一印象から述べるとそれは私にとってそれほど強烈なインパクトではなかった。

もちろん Hard 面に限ったことであるが自身の診療所が劣っているとの印象は無かった。それは酒田での熊谷先生のご指導の下、一昨年全面改修を行った事にも起因する。

Soft 面から言えば歯科衛生士教育、専門的ホスピタリティー等など学ぶことばかりでした。

ハートのある診療所作り、千葉先生のプレゼンの中でもありましたが当院でも努力していきたいと思います。

(フォーサイス見学の感想)

それは驚きでした。専門性を持った歯科衛生士教育、日本の歯科衛生士教育に欠けていることが明確に分かりました。

学生が PMCT を行い患者にチャージする。日本では考えられないことです。

帰国後、群馬県の歯科衛生士教育の中でフォーサイスの教育プログラムを活かすことができるよう提言して参ります。

(今回の研修の課題について)

多少ハードな研修でしたが、限りない時間の中で多くのことを学ぶにはこれで良いと思います。事前に研修内容の詳しい資料などを戴けたらよかったですと思います。これらの予防に関する資料を彼らにもっとプレゼンし、その中でディスカッションできたらよかったですと思います。

米国のデンティストの予防に関する考えを直接聞きたかった。

熊谷先生に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

江間 誠二

大学を卒業して以来、講習会といえば材料店主催のものがほとんどで大学主催の講習会では東京医科歯科大学の TMJ 咬合器の使い方のポストグジェットコース位しか受けたことがなかった。

今回、ボストン大学研修を受けて、大学の卒後研修に対する熱意の強さが伝わってきた。またレベルが非常に高いように感じた。

第一日目における Dr, Thomas Van Dyke による歯周病と心疾患に関する講演では血管からバクテリアが発見できなかったと聞き、日本での研究者の発表と異なるので驚いた。実験の方法そこから導き出された事実の整理の仕方、推測の方法が論理的で、エビデンスに基づいて確実に行っているのが解り易く、ボストン大学の考え方のほうが正しいことが良く理解できた。

Dr, Dan Nathanson はボンディングの歴史、その方法について研究成果を教えて下さり、より強固なボンディングを得るための手順、製品ごとの比較をして下さり、ボンディング材の特性がよく理解できた。

二日目の Dr, Zhimon Jacobson のインプラントについてのボストン大学の哲学、患者さんの立場に立った治療の進め方、CT を使った診断の方法がすでにシステムティックに出来ているのを教えていただき大変良かった。今まで私はパノラマと頬舌の断層写真は何らかの方法で、CT を使った診断を診療に取り入れて、正確な診断をするようにしたい。

Dr, Steven Morgano について最初はずまらない話かなと思ったが聞いている間に、歯根破折の原因が使用セメントとフレアーを正しく与えるかにあると聞いて驚いた。私としては、歯根破折の原因は咬合による応力と根管拡大に原因があるのではないかと予想していました。フレアーを十分に取れるかが抜歯基準になることが理解できました。

三日目の Dr, Donald Ferguson の Rapid Orthodontics については、私が矯正をかなりメインで診療を行っているので大変興味があった。外科手術を施すことによる海面状骨の変化、2週間に一度 activation することによる効果、リラプスを防止するための骨移植の重要性が理解できた。しかし、舌癖に関する考え方には違いがあるように思えた。

Dr, Louay Abrass の講義はマイクロスコープを使った根管治療で拡大鏡を使うといかに精密な根管治療が出来るかが理解できた。根管拡大に回転器具を使用する方法は実際に自分で使ったことがあったが、根管内で器具が折れることが多く、現在は全く使用していないので、実際に実習を行い、回転器具の使い方を経験してみたかった。

Foryth Dental Hygiene Institute の見学では、患者のプライバシーを守るために個室になっていること、データがチェアーサイドのパソコンで即座に入力できること、デジタルレントゲンが設置されていて、学生が実際に使用していること、など施設が充実していた。学生を精神面で支える制度、金銭面で支える奨学金制度など充実していた。

午後からの歯科医院の見学では将来の歯科診療の分野での歯科衛生士の役割の重要性が理解できた。歯科衛生士、GP、専門医の役割が明確でしかも立場が対等であった。今後、どのように医院を変えて行くべきか、明確な方向性をつかむことが出来た。

全体として、期待していた以上の講師が準備されていて、世界最先端の知識を吸収することが出来た。明日からの診療にこの知識を取り入れて、診療室を改善していくことが楽しみとなった。

毎年このコースを受けることは難しいが、3年に1度くらいなら受けてみたい。

熊谷先生、宮本先生に深く感謝します。

小玉高信

熊谷崇先生 御侍史

今回このような充実した機会を与えて下さってとても感謝しております。

熊谷先生、宮本先生をはじめとするボストン研修を企画していただいたスタッフの皆様大変ご苦労なされたと思います。お疲れ様でした。

日吉歯科からボストン研修に空きが出たというメールをいただき、これはチャンスと思い参加をきめました。

長期休診にすることや体調面での不安がありましたが昨年12月に **oral physician course** を終了し、まだその余韻がさめないうちに自分の診療所をみつめ直したかったのです。また先輩の **oral physician** の先生との交流によって、自分に足りないものを吸収したいと思っていました。結果は予想以上でした。熊谷先生のお話を初めて聞いたのが歯科医として第一の転機とすれば、今回は第二の転機にまつとなるでしょう。今回の研修はそれほどインパクトがあったのです。ボストン大学での講義は、日本での保険診療にどっぷりつかった私の頭に風穴をあけてくれました。アメリカの歯科医療がすべて良いとは思いませんが、きちっとしたエビデンスをベースにおいた医療の重要性を知ることができました。特にモルガノ教授のフェルルの重要性については、自分も補綴科にいたため、ある程度は知っていたものの、アメリカでは歯牙の予知性にこれほど影響を与えているとは認識していませんでした。自分の臨床基準を改めて見直ししなければと思いました。日本には知りえなかった新しい知見がたくさんあり、日々の臨床に少しでも役立てようと考えています。日々のマンネリ化した診療を少しでも変えたいと今自分の心はわくわくしています。(ただ接着に関しては自分の専門であることもあり、日本のほうがまだ上をいつてる感じがして、より自分の臨床に自身がもてました。)

4軒の診療所見学では、アメリカの診療所の形態がよくわかり自分の診療室も個室化する必要がありなと感じ、帰ってすぐに衛生士ルームの設計を検討したいと思います。

Rabinovits 先生にはご家庭まで御招待いただき本当に感謝しています。もっと臨床例をお聴きできればよかったです。アメリカでは予防するのはあたり前、メンテナンスするのはあたり前、それが日本ではできていない。私達オーラルフィジシャンの役割の重要性を改めて認識する毎日でした。オーラルフィジシャン1期生から恩話や苦労話も連日連夜聞けて本当に良かったです。まだまだ甘さのある自分をもっときたえていきたいと思っています。

大変きつい日程でしたが今成田に着くのがさびしい限りです。オーラルフィジシャンの先生方とは7月の酒田でまたお会いしたいと思います。

最後に熊谷先生感動をありがとうございました。この感動をいつまでも忘れず、オーラルフィジシャンとして頑張っていきます。感謝、感謝……。

わかみ歯科クリニック

oral physician GC Ⅲ期生終了

秋田県男鹿市角間崎字角目木 4-8-1

長谷川須美

今回キャンセルがあったおかげでボストン研修に参加する事ができました。夜なかなか眠れないのはつらかったけれど毎日が新鮮で刺激的な時間でした。

私は特殊な技術も能力もない一般開業医で、自分の技量も理解しているつもりです。仕事もある時にはとてもストレスであり何度も何度もやめたいと思ってきました。でも患者さんのなかには先生のお陰でこんなに噛めるようになってうれしいなどと喜んで下さる方もおり、その言葉が励みになって今日まで

続けてこられたと思っています。自分のしている事が本人の役に立つなんて本当に素晴らしい事です。

今回の研修で最も楽しみにしていたのは開業医の見学でありこれは期待以上に細部に渡って見学する事ができとても参考になりました。日吉歯科の目指す world standard という内容もよく理解出来ました。今年の夏には医院の内装をするつもりなのでとても興味深く見学させていただきました。DHの学校も日本のような専門学校レベルでなくDTの助手、付属といった立場ではなく1人の予防の専門家として教育をうけているのがよく理解出来ました。帰ったら自院の DH にそれを伝え今以上に頑張りたいと思いました。

正直、この研修で一番感動したのは Dr 千葉の発表でした。Oral Physician 育成コースの研修で酒田に言った時にビジネスホテルの奥さんが日吉歯科に行けば日本一の治療が受けられると話されたのを聞いたときと同じくらい涙があふれそうになるほど感動しました。Dr 千葉は自分の信じる事を行い彼自身も幸せでまた周りの人も幸せになりいい循環をしているのだと思いました。Boston まで来て Dr 千葉の話が一番印象的などというのは Dr 熊谷に申し訳ない気持ちですが GP にも日本にはすばらしい先生が何人も居るんだと新たに感じました。

時差ボケのせいか夜の睡眠が十分にとれず一生懸命講義をしてくださった Pro には本当に申し訳なかったのですが午後の講義は眠気との戦いでつらかったです。

私は外科があまり好きではないのでインプラントの経験は0ですが、インプラントロジーの話は興味深いものでした。CT の読影などは教えていただくこともなかったので私にとってはとても新鮮な内容でした。

交流会 (Dr.Vandyke 主催) では、clinical Assistant Pro 山本の隣に座ることができたので臨床で日頃疑問に思っていることを質問させていただきました。日本ではこういう機会もありませんし、これほど friendly にいろいろ教えてくださることもないと思います。また私にとっては Dr 熊谷も雲の上の人ですが、機会あるごとに話しかけていただき、人間”熊谷崇”を見させていただいたようにも思います。印象的だったのはスナップ写真であつても必ず写っているかどうかを確認していたことです。臨床でも必ず習慣としてこうされているのだと思いました。長い間にデータを積み重ねてこられた先生ならではの習性なのでしょう。

また Dr.Taka がこの地でしっかり学び人脈をつくったからこそその研修内容であり単なる研修ツアーとは違う素晴らしいものだったと思います。国内外問わずたくさんのDTと出会えたことはとても刺激

的でした。

歯科医としての仕事は時としてストレスで今までにも何度かやめたいとおもっていました。でも患者さんに感謝されるとそれがまた励みになり今日まで続けられたように思います。きっとこの仕事が好きなのだろうと感じています。好きなことが出来る人生は幸せだと思います。私の力などささやかなものですがせめて自分を信じて来院して下さる患者さんには「生涯にわたって自分の歯で食べられる幸せ」を味わっていただけるようになりたいと思います。

Heart には熱いものがありますが Oral Physician としてはまだまだ未熟です。Dr 熊谷との出会いはこれからの歯科医として自分が進むべき道を決めてくれました。ゴールは決まったのでそれに向かって歩いていきたいと思います。今回の研修で、またその気持ちを新たにしました。Dr 熊谷にはこれからも教えていただきたいことが沢山ありますからお体には十分気をつけてご指導のほどをよろしく願いいたします。そして是非カリオロジーの研修会も企画してください。お願いいたします。

佐藤大志

ボストン研修を終えて

大変素晴らしい研修でした。日本に戻ると「ボストンどうだった」と聞かれるのは当然なのですが、恐らく私だけではないと思いますが「良かった」と皆、口を揃えて言うと思います。

誰もが参加できる研修会でないのも、いい条件でした。オーラルフィジシャンである医院であること。これが良かったです。皆の志が一緒である為、歯科に対しての意識レベルが高く、良かったです。

日本の歯科医師の評価というのは低く評価されがちですが、今回集まった人達というのは、明日の歯科界を背負って立つ人達であり、明日に活かせる自分のモチベーションが高くなりました。早速明日にでも医院のスタッフに話し、活かしたいと思います。

大学での講義も大変素晴らしかったです。世界の著名な先生方を前に講義を聞いたということは大変光栄でした。アメリカの歯科界は結果を大切にしています。結果が悪い処置はしないのが当然であります。日本ではどうか、保険の制約があるので全てということは出来ないけれど、ある程度予後の予知性という事が今回の講義の中で聞けたというのは良かったと思います。これからの日々の臨床に活かし、患者さんに対して誠実に対応したいと思います。そして、アメリカの歯科衛生士学校、開業医の見学、百聞は一見にしかずという言葉がありますが、まさにその通りで一見の価値はありました。熊谷先生が講演される時必ず、個室は必要というのが分かった気がします。案内された場所は、今後歯科医院を展開していくに当たって、とても参考になりました。今の医院に満足するのではなく、今よりもっといいものを作り上げていきたいと思えるようになりました。

話は変わりますが、ボストン市内にいる日本人留学生またその関係者との話を聞くという貴重な体験は今後の人生観を変えるものがありました。当然自分も変わろうとしますが、私の息子にしても、若い時から世界を知るといっても悪くないと感じました。息子はまだ2歳前ですが絶対小さいときに世界に触れさせたいと思います。

今回の研修をコーディネートしてくださった宮本先生、各関係者には大変感謝しています。ありがとうございました。

今後の研修に活かせる事としては、1人1人ケースプレゼンをやったら面白いと思いました。日本の歯科事情を話し、ディスカッションしたらアメリカ人はびっくりするのではないのでしょうか。1人10分の時間をもらってしたらどうでしょうか。臨床に則したものであればあるほど面白そうです。「自分はこれだけのことをやった」あなたはどう思うか、いいかもしれない。当然、皆記録しているわけだから日々の記録の中でこれはというものを発表したらいいかと思います。日々の診療を見直すのも悪くないと思います。

永森 司

[ボストン研修を終えて]

ボストン研修を終了しての感想を一言で表すと Exciting!ということになります。それは、先ずボストン大学での講義が素晴らしかったからです。Dr. Van Dyke の歯周病の治療法を根底から覆す最先端のトピックス。Dr. Jacobson のインプラントを「Education」からの整備しようとする姿勢。Dr. Ferguson の Decortication による矯正方法(これは日本での普及が望まれます)。どの講義もとても刺激的でした。ボストン大学の中で研修を受けるだけでも幸せなのにどの教授も本当に学生に教えるような心のこもった取り組みをしていただけました。ボストン大学を挙げて協力してくれていることを肌で感じられました。

この3日間の集中講義は大変だったけど(時差ボケによる睡魔には苦しみました)こんなチャンスはなかったと断言できます。

また、Dr. Rabinowitz のご厚意には感謝しなければなりません。自宅(立派なお宅でカルチャーショック!!)でのホームパーティーに全員(30人以上)招いていただいてバーベキューをご馳走になるなんて、なんとラッキーなのでしょう。

その上、日米相互でのケースプレゼンテーションとディスカッションの機会を得るとは想像もしていませんでした。これは、「新しい形の海外研修」かもしれません。さらに、最終日のフォーカス歯科衛生士学校や開業歯科医院の見学は研修を締めくくるには最適のものでした。アメリカでの歯科衛生士の日本とは比較にならないくらいのハイレベルの役割、充実した教育プログラム、どれをとっても驚きでした。ハイジニストがとても「かっこよく」見えました。郊外型、都心型4医院の見学もまた驚きの連続でした。

専門医のチーム医療や日本とはスケールの違う診療所形態など日頃の保険診療の悩みなど吹っ飛ばすくらいの衝撃を感じました。本当にボストン研修に参加できてよかった!と思える1週間でした。熊谷先生に感謝です。そして現地で全ての段取りをつけていただいた宮本先生(ボストン大学 歯周病科)にも同様に感謝します。

最後に一つ要望があります。熊谷先生はボストン大学研修の終了式の挨拶でこうおっしゃいました。『私は「治療」は「アメリカ」で学び「予防」は「北欧」で学んだ』と。今度は是非スウェーデンでの研修を行ってほしいと願っています。「富山」での Oral Physician の道はさらに続く…SAT with ISO を目指して。

佐藤克典

Oral Physician ボストン大学研修を終えて

今回の4月4日から4月12日のボストン大学での研修を終えて今回の講義していただいた、炎症のコントロールにおける新しい()といった現在進行中の新しい知見やボンディングを行うにあたっての重要な要件や材料選択。

インプラント処置における CT 読影やその術式における注意的な事柄、インプラント教育の不足などインプラントが抱える問題点。無髄歯でのフェルール効果やポスト築成時の注意点。ディスエルトイクーションを用いた短期間で行える矯正治療の可能性予知性のある歯内療法を行うにあたり必要とされる術式や器材の説明など。基本的な診療を順序立てて行うことの重要性、検証されたデータに基づく診療方針、患者説明や治療効果を考えた治療計画など、日本での時間に追われている診療にて置き去りにされがちな多くの事を学べる素晴らしい講義でした。

日本での一開業医である自分がボストン大学の先生方に受け入れてもらえるのだろうかといった不安を持ちつつ渡米してきましたが宮本先生やボストン大学の各々の先生方の親切で熱意ある講義や自宅に招いてくれたのホームパーティーによる歓迎などによるその不安もすぐなくなりました。研修終了時のレセプションでは学部長の先生をはじめ、講義をしてくださった各講師の先生方や企画運営して下さいました多くの先生方が集まって戴き大学をあげての対応にとっても嬉しく思いました。

またかねてから興味があった海外での衛生士の働き方を For syth Dental Hygiene Institute にて直接見学することが出来、生き生きと目標を持ちドクターとチーム医療を行う衛生士の姿勢を今後の自院での目標にしたいと思いました。スーザンジュンチンス先生や他のスタッフがとても親切にしてくださいまして感謝しております。

また、ボストン市内で開業されている先生方の診療所を見学し、個室による診療室のあり方、専門医でのチーム医療、Dr,17名を抱える最先端の大規模歯科医院、郊外型の GP も伴った歯科診療所、診療の室を大事にし、院内のオブジェにも細かい気配りが行き届いた少人数の診療所など、様々なタイプの診療所を紹介していただき、今回参加した全てのドクターの将来に役立つものであります。

今回のボストン研修の企画とこの様な機会を与えてくれた熊谷先生や現地での手配や講師陣のアポイントなど準備に携わって下さった宮本先生、大学や施設の先生方、日本から一緒に参加し通訳やレセプションを盛り上げてくれたオーラルケアの大竹社長や医師薬出版の柳さん、JTB のガイドの佐々木さんなど関係して下さった全ての人たちに感謝したいと思います。また今回の研修中、自院で新人研修を行ってくださっているスタッフや快く堅守参加を勧めてくれた家族に感謝し、今後の自分の成長の役立てたいと思います。

また今回出会えた仲間たち(Oral Physician の先生方)にも感謝したいと思います。

再会を楽しみにしたいと思います。

加藤大明

1、私は今度の研修に参加して大変良かったと今思っています。というのは、アメリカの歯科医療のレベルの高さを感じるとともにその問題点も含めて、アメリカの歯科の現状を十分理解する事が出来たからです。

私はやっぱり日吉歯科において実施されている北欧の予防を中心としたフィロソフィーの方が好きだと思いました。

金銭的利益や訴訟対策をベースとした歯科医療もとても大事な事だとは思いますが、私は「真の患者利益」こそが歯科医療の全ての行為における最も優先する判断基準だと信じています。

2、診療室を見学して

私がとても嬉しかったことは、4つの診療室(すばらしい)を見ても私自身があまり驚かなかったことです。

熊谷先生が提唱されている診療室と全く同じだったからです。(豪華さ等マイナーな違いはありますが…)

つまり私が知っていることそして目指しているものと同じものが「そこにあった」だけだからです。

「やっぱりこれでいいんだ。」と驚きより確信したことがとても嬉しかったのです。

3、教育に関しては圧倒的にアメリカは素晴らしいと思いました。

またうらやましいと思いました。アメリカの合理主義が極めて機能的に作用している結果だと思いました。ジェイコブソンのインプラントプログラム(アメリカでも、まだ系統だって教えられていないとのことでしたが…)は、とても魅力的でした。

要望としてはただ1つ北欧も見たいと思いました。

久保郁子

Oral Physician group ポストン研修 Report

熊谷先生御侍史

まず最初に今回の Oral Physician Group のポストン(大学)研修に参加させていただき、深くお礼を申し上げます。研修に関して熊谷先生・宮本先生とその他諸先生方のお心づかいには感謝いたします。熊谷先生が30数年間海外で日本国内で熱心に研修研鑽され、築きあげた人脈が今回のポストン研修を大成功に導くものとなりました。熊谷先生はもちろん、宮本先生の語学力と全てをかね備えた能力を人なつっこさには驚くばかりです。渡米してポストンに着いてから Dr 宮本・Dr 室井・Dr 熊谷なおや・Dr 山本・Dr 長尾にお会いできて、以前と比べて多くのことを学びました。ポストンで活躍されている先生方からアメリカから見た日本の歯科界の長所と欠点を聞いて日本の歯科医療の改善点をあげ、今後どのように変えていけばよいか難しい問題に直面しました。

私ができることは、自分の診療室を変えていくことから始めました。隣地を購入したので帰国後すぐに建築業者と契約をして診療室の新築工事を始めます。設計士は M マネッジの掘尾様から、Dr 斉藤の医院を設計された1級建築士を紹介してくれました。新しい医院が完成したらすぐに ISO を取得できるように現在、品質管理、スタッフ教育、5S、是正処置構成図を記録し、文書化してシステムづくりをしています。新しい医院を建設する際に今回のポストン研修はとても重要な必要条件でした。

最初の3日間、ポストン大学を訪問して優秀な6人の prof の講義を聞き、最先端の歯科医学に触れて、さらに深く学びたいと意欲がわきました。prof の税幕はすばらしい通訳でさらに理解が深まって宮本先生ほか諸先生方にお礼を申し上げます。受講後はポストン大学学長と Dr.Jacobson から終了書を授与されて、いっしょに写真におさめられたことは感謝と感激でいっぱいでした。

興奮がさめやらぬうちに今度は Dr.Rabinowitz のご家庭に招待されて初めての B.B.Q パーティに参加しました。家の中には普通にスクリーンとプロジェクターと来客の人数分の椅子が設置され Oral Physician の3人の先生によるプレゼンテーションがなされて Dr.Rabinowitz に高く評価され Group の一員としてうれしく思いました。日本国内での発表のみでなく海外で権威ある Dr に高く評価してもらうことでステップアップできることがわかりました。この日もまた宮本先生のすばらしい通訳を堪能しました。

そしてポストンの最終日は宮本先生から引率して下さって Forsyth DrH.学校を訪問しました。D.H.スーザンが自慢するに値する設備をもち D.H.が自信と誇りをもって治療している様子はすばらしいと感じました。

アメリカ国内でD.H.が高く評価されていることは日本のD.H.は勇気づけられると思いD.H.にアメリカでの地位を伝えます。午後からの開業医の Dr の施設見学は興奮して MD カードがなくなるくらい写真撮影をしました。自分の目で見て体感して始めてアメリカでの実情が理解できました。

それからもう1つうれしいことがありました。シカゴ空港で東京歯科大学の井上先生からプレゼン

テーションをみせてもらったことです。もっと早く若い先生とお話できていたらと少し残念に思いました。9日間の研修を終えて今後の目標はISOを取得すること、7月30日31日のスタッフセミナーに参加すること、宮本先生のように通訳ができるようになったら最高です。今後もしスウェーデン研修がありましたら参加を希望します。9日間グループの先生方と親しくお話でき、熊谷先生の隣にすわれて直接お話が聞けたことがすばらしくて、これで10年間は頑張れそうです。グループの先生方の住所と勤務先が出元所にわかっていたらもう少し早く親しくなれたかもしれません。

追伸

乱筆お許し下さい。英文のレポートでなくてほっとしました。4月16日の愛媛県でのセミナーを聞きにまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

佐々木 英夫

百聞は一見にしかず

私たちはいつも十分な知識、技術、環境で患者さんに最良と思われる医療の提供を目指しています。しかし、日本の環境(歯科医師にとってもデンタルスタッフにとっても、患者さんにとっても)が、世界の最高水準からは遠く離れていることを実感させられた研修旅行でした。

この差はどこから生まれてきたのでしょうか。教育? 国民性? 歴史? 保険制度? きっとすべてが違っているのでしょう。自分達のかんりの努力がなければこの差は開く一方ではないかと感じました。

すばらしい環境での歯科医療を実際に肌で感じこれからの方向性がはっきり見えてきたように思います。マネージメントができる頭の柔軟性を備え、ボストンのデンタルオフィス並みの設備でみんなが気持ちよく仕事をし、患者さんにも満足していただけるように。

課題は山積みですが、明日からすぐに再スタート!!

今回のすばらしい研修旅行を企画して下さった熊谷先生、宮本先生に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。次回また参加させて下さい。

新保成一

今回のポストン研修は非常に有意義でありこのような機会をつくって頂き本当に有り難う御座いました。

今回の研修で特に印象に残ったのはDrラミノビッツのご自宅での千葉先生のプレゼンテーションの際にラミノビッツ先生がその感想を「まるでお医者さんの様ですね」とおっしゃられた事でした。私自身の感覚としては私の実家は歯科ではありませんので幼少のころより医師も歯科医も仕事の内容に差はあっても歯科医も医師の一部という風に見ておりましたし、一般の日本人の感覚として今でもあると思います。

ところが今回の研修で私自身が感じた事は、歯科はアメリカにおいて医科とは別であり、アメリカの歯科医は完全に技術者として徹しているように思われました。

また宮本先生にお聞きしたところ保険会社の意向というものが医療に大きな影響を及ぼしている事も聞きました。

日本において我々が置かれている環境とは大きく違う点が数多くありうらやましい点またそうでない点がある事を知りました。

但し、我々に必要な事は和魂洋才、すなわちアメリカから技術を学びさらに北欧型の治療および、公衆衛生を学びそれらを mix し我々のオリジナルを作り国民に提供する事であると確信しました。

大変な苦勞が居るかと思いますが是非北欧研修の機会を作っていただきたいと痛切に思います。本当に有り難う御座いました。

加藤久尚

ボストン研修では本当にお世話になりありがとうございました。今回の研修で事前の準備が非常に大変だったと思います。そして宮本先生のきめの細かい対応があったからこそ今回の研修内容になったと思います。文章にしてしまうと簡単になってしまうのですが、私自身、妻や子供たちのこれからの人生が変わるようなすばらしい研修会であったと思います。知識だけでなく、実際に肌で感じる事が出来たことで、日本の歯科治療に必要な形態がはっきり見えてきたような気がします。日本に帰ってからやらなければならないことも、今刺激があるうちに行動にうつさなければならないと思っています。

紙面の関係であまり具体的には書けませんが、「人は教育によってつくられる」という哲学があり、「経済的にも成功することができるように努力されている」こと、また米国のどの地域に行っても統一された治療内容であることはすばらしいと思いました。

治療に時間をかけられるのはよいのですが、治療費が高くて治療が簡単にうけられないこと、ビジネス化しすぎている事や抜歯基準が高い事は日本の方が良いのかもしれませんが。

どのような研修会でも熊谷先生がおっしゃるように「その人のレベルに応じて学べる内容が違う」というのは同感です。もしまたこのような研修を用意していただけるなら是非参加したいと思います。そして語学はもちろん、歯科医学、哲学ともに勉強してその時に成長した自分を認識できるように努力していきたいと思っています。

本当にありがとうございました。

福田健一

ボストン研修(オーラルフィジシャン)に参加して

まずは、今回このような素晴らしいプログラムの研修を企画して下さった関係各位に心から感謝いたします。

今回の企画の素晴らしい点は Oral Physician が目指すべき内容を全て網羅していると考えます。

まず、第一点は World Standard であるべき知識(世界の最新情報)の認知

第二点は、Co dental staff の歯科衛生士の目指すべき姿の認知と確認

第三点は、それぞれ必要とされる歯科医院の求められるべきスタイルの診療所の認知

まさにこの三点が Oral Physician としての患者さんに提供すべき大切な Factor と考え今回このプログラムを企画された熊谷先生始め、関係各位の素晴らしさに改めて驚き、涙の感動を覚えました。

本当にありがとうございました。

次の要望ですが今回は主にペリオドントロジー中心とした企画でしたが今度は北欧中心のカリオロジーを立体とした研修の企画を期待します。

また、歯科衛生士もこの様な企画に参加できるようなシステムができれば診療室の更なるグレードアップにつながると考えます。

山下伸司

オーラルフィジシャン ポストン研修に参加させていただいて

Dr. Thomas Van Dyke の「細菌はあくまでもトリガーであり、炎症反応が原因で、自己破壊を起こす……」という話から始まり、ポストン大学での数々の講義、歯科医院の見学は、とても衝撃的で、今後の歯科医師人生において、ターニングポイントとして位置づけられると思います。

ポストンの、三つの歯学部のある大学に在籍されている 日本の先生方との交流という貴重な体験もさせていただきました。

米国の歯科診療事情、的確なエビデンスに基づいた、予知性のより高いものを常に選択する医療、専門医の歯科医療への取り組み、マネージメントの実際、抜歯基準やインプラント選択の日本との差、歯科衛生士の診療への取り組み、……を肌身で感じるさせていただくことができました。

また、一緒に参加の先生方との食事をしながらのディスカッションも、オーラルフィジシャンとしての新たな炎をいただきました。

ここで感じたことの新鮮さを保ちつつ、モチベーションを維持し、今後の歯科医療に取り組みたいと思います。

次の機会もぜひ参加させていただきたいと願っております。

熊谷先生、宮本先生、数々の先生方のご尽力本当にありがとうございました。

千葉雅之

ボストンに来る前は期待と不安で胸がいっぱいでしたが、百聞は一見にしかず、素晴らしい研修内容に感激いたしました。本当に参加して良かったと思います。

初日から連日の懇親会で、Oral Physician ボストンチームの仲間たちと気持ちが通じ、素晴らしい人間関係が芽生えました。このメンバーは一生の宝になりそうです。

7月には酒田で Oral Physician スタッフミーティングが開催されますが、またこの仲間たちと一緒に熊谷先生を囲む事が出来るかと思うと楽しみです。

素晴らしい研修内容のお陰で、アメリカにおける歯科医療の現状がとても良く理解する事が出来ました。その結果日本の歯科医療の問題点や進むべき方向性が見えたような気がいたします。

このアメリカに対して、北欧の考え方がどうなのか、とても興味が湧いてきました。今度は是非、スウェーデン研修に行ってみたいと思います。またプレゼンテーションをする機会を与えて下さりましてありがとうございました。突然のお話で少し戸惑いましたが、「全力を尽くしてみよう！」と肝に銘じ取り組みました。発表後にラビノビッツ先生から「まるでお医者さんのようですね」とのコメントを頂きました。心の中で「We are Oral Physician!」と叫びながらとても嬉しくなりました。発表する事はとても大きな勉強になりました。これもひとえに熊谷先生のお陰です。

今回の研修で学んだを10年先の歯科医療に組み込みながら Oral Physician の仲間達と共に世界一の歯科医療を追求していこうと思います。

熊谷先生、素晴らしい海外研修を企画して下さいまして誠にありがとうございました。心から厚く御礼申し上げます。

大楽貴彦

今回この研修に参加させて頂き深く感謝しております。
この研修に参加してみて大変良かった点が3つあります。

1つ目は同じ考えや目標をもったメンバーが集まり毎晩議論することが出来たことは刺激になりました。

2つ目はボストン大学で行われている研究やエビデンスに基づいた臨床を一次情報として自分の目で見えて聴くことが出来たことは今後の自分の臨床に大きく生かせることが出来ました。

3つ目はグローバルな視点でボストン大学や??大学で活躍している若い日本人との交流を通し、自分の小ささに気付きました。

診療室を休診することは苦渋の決断ではありましたが、今後の人生に決して無駄なことではありませんでした。この研修が大きな経験となりこれから医療を行っていく上で大きなモチベーションになると思います。

Oral Physician メンバーがそれぞれの地域に戻りその地域で一番の診療室となり患者さんから本当の信頼をうけ、日本の歯科医療の中心として活躍していければ素晴らしいことだと再認識することが出来ました。

泉 要佐

ボストンでの7日間の研修が過ぎようとしています。内容の濃い充実したすばらしい時間をありがとうございました。

ボストンのホテルに4/5(火)の夕方に到着し、時差ボケとの戦いが始まりました。次の日からの3日間のボストン大学での講義は圧巻で、日本にいるときはどんな講師陣が来るのか、どんな内容の講義をするのか不安でしたが、ボストン大学の名だたる、世界的にも有名な教授による講義内容は「すばらしい」の一言でした。

最新のトピックを踏まえ、アメリカでの臨床に基づいて講義はペリオ・エンド・矯正・補綴・インプラント・接着と多方面渡り、大学に通っていた時のような授業内容でした。

通訳してくださった先生方にもとても分かりやすく、講義を聞くことができました。

また、教授の家に招待していただいたのバーベキューはアメリカの生活を垣間見ることが出来たことは、宮本先生の人徳によるものだと感謝しております。

最終日には衛生士学校に半日見学、午後からは4つの開業医のオフィスの見学と自分の日本での診療所のあり方を考えさせられる1日になりました。

日本からご一緒させていただいた先生方と仲良くさせていただいたことも感謝しております。

7日間の充実した日を与えて下さった熊谷先生と宮本先生には感謝の気持ちでいっぱいです。そして、何も分からない私たちをガイド、直訳、案内をしてくださった宮本先生には、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

三浦猛

一言でいって他では絶対に経験できない研修であったと思います。

まず最初の3日間、ボストン大学での世界トップクラス教授達に見る講義、そして素晴らしい同時通訳。若いうちに、出来るだけ若いうちに、英語圏で勉強することの大切さを痛感させられました。そして一日半の自由行動。米国の古都ボストンの街並とボストン美術館を十分に楽しむことができました。

次にラビノビッツ先生宅でのプレゼンテーションもありのBBQパーティー、アメリカ人のプライベートな生活の一部も知ることができ、本当にラビノビッツ先生には感謝です。英語が自由に使えれば自分の気持ちをラビノビッツ先生にうまく伝えられたのにと悔しい思いでした。

それから最終回のフォーサイス衛生士学校の見学、全ての施設を見せてくれたことに、昼食会にと感謝です。何よりもスーザン・ジェンキンス先生の人柄の良さが素晴らしかったです。

そして4軒の開業医の見学。それぞれコンセプトが違うところが興味深かったです。プルデンシャルタワーのオフィスはまるでアメリカ映画の中に入り込んでしまったようでした。一週間の研修で特筆すべきは宮本先生のコネクションの広さとコーディネート素晴らしさです。ありがとうございました。

また毎朝の朝食時間に熊谷先生のお話を身近に聞けたことや、大竹さんの意見、各先生方のお話を聞けたこともとても有意義でした。

これらのことをすべてこれからの診療に役立てていきたいと思います。

このような素晴らしい研修を企画してくれた熊谷先生に心より感謝致します。